

ユニット名	学生FBI
代表者	法文学部 法経学科 西村 和真
所属人数	11名
達成に資するSDGs目標	1 貧困をなくそう 2 飢餓をゼロに 4 質の高い教育をみんなに 10 人や国の不平等をなくそう 12 つくる責任つかう責任 16 平和と公正を全ての人に 17 パートナーシップで目標を達成しよう
活動概要	<p>●フードバンクのボランティア(毎月) →私たちはNPO法人「しまね子ども支援プロジェクト」(以下、SCS)が運営している「コミュニティフリッジ出雲」でボランティア活動をしており、今後も定期的に行います。 →作業内容はコメ、食品の仕分け作業、商品登録などです。</p> <p>●宿題やつつけ会(8月4日、9日) →小学3年生以上を対象に大学生が勉強を教えます。 《このイベントを企画した趣旨》 一人世帯の親御さんから夏休み子供たちに勉強を教える時間を確保できないから勉強会を実施してほしいという要望(「利用者生活実態調査」より)からこの企画を実施しました。 (※「利用者生活実態調査」はSCSと学生FBIが協働して行ったアンケートです。)</p> <p>●夏まつりイベントの実施(8月24日) 《このイベントを企画した趣旨》 勉強会に加えて夏休みイベントを実施し、楽しい思い出をより多く子供たちに作ってほしいという思いから企画しました。</p> <p>●冬イベントの実施(12月ごろを予定) 私たちFBIが応募したコノヒトカンプロジェクト(以下、PJ)の缶詰を用いてイベントを行おうと思っています。 内容は缶詰を用いて1人親世帯の親子を対象とした料理教室の実施です。 また余った缶詰はフードバンクに寄付します。 コノヒトカンPJとは、岡山県にある一般社団法人「コノヒトカン」が行っている活動です。具体的な活動として、廃棄される食材を用いて作られた缶詰を活用して社会の貧困問題と食品ロスに貢献する活動などがあります。私たちは、その団体と協働して、料理教室を考えています。そのためには、団体の審査を通る必要があります。10月に行われる団体の2次審査に参加します。(1次審査は通過しました。)その審査のために、プレゼンを作成しています。 《このイベントを企画した趣旨》 長期休暇にお米や食料を買うことが難しいひとり親家庭にとって、その期間は給食もないため、その親の負担が増え、不安に感じているそうです。そのためにも、私たちが食事に関するひとり親家庭の不安を減らしていきたいと思い、このイベントを企画しました。</p>
主な連携先 (予定を含む)	NPO法人「島根こども支援プロジェクト」 一般社団法人「コノヒトカン」
成果物の公表予定、 社会への波及効果	<p>●活動の成果物の公表予定 ①日常的な活動では、Instagramを使って発信します。 ②学園祭でポスター掲示をして活動を公表します。 ③年度末では1年間の活動をまとめた報告書を作成して公表します。 ④コノヒトカンPJではその計画をAPUで報告し、公表します。</p> <p>●それぞれの活動の意義 1フードバンクのボランティア活動(SDGsの目標1, 2,10) ひとり親家庭に食品を届けるためにも、フードバンクで寄付していただいた食品をひとり親家庭にそのまま渡してはなりません。例えば、お米1袋が寄付されても、そのまま各家庭に配ってしまうと数も足りなくなってしまう、不公平感もあると思います。 そこで、私たちは利用者さんが食品を安定的に受け取れるようにするために仕分け作業を行っています。 また、データ入力も、誰がどのくらい寄付して下さったか把握し、利用者さんが持って行った食料を知るためにも必要な作業です。 そして、これらのことは、フードバンク事業には欠かせない作業です。 よって、この活動の意義はフードバンク事業を支えるためです。</p> <p>2宿題やつつけ会(SDGsの目標4,10) 子供たちが集中して勉強に取り組める場を提供し、十分な勉強時間を確保できます。 また、私たちが勉強を教えることにより親の負担を少しでも減らせます。これは家庭の経済状況に左右されず、すべての子どもが学びの機会を得ることができ、教育格差を多少なりとも減らすことに貢献できると考えます。</p> <p>3夏祭りイベントの活動 (SDGsの目標4,10) ひとり親家庭において、アンケート調査で「子どもと過ごす時間がない」と回答していただいた方や「経済的余裕がない」と回答していただいた方が多くいらっしゃいました。 そこで、私たちが夏祭りを実施することで、本来であれば、経済的余裕がなくて行けなかった夏のイベントを子供たちが楽しむことができます。 また、彼らにとってイベントを楽しんだ経験は貴重な体験になると同時に、体験格差の解消にもつながっています。</p> <p>4冬イベントの意義 (SDGsの目標1,12) コノヒトカンの缶詰を用いて料理教室を地域の方々や協働して実施することで地域とのつながりを生み出すことのきっかけとなります。また、料理教室で出会った親同士が交流できる場所にもなります。 さらに、廃棄食材を用いた缶詰を用いることで、間接的に食品ロスを削減して、資源を無駄なく循環させることに貢献しています。 このように、料理教室を通じて、親子、ほかの家庭、地域がつながることでひとり親家庭の方のよりどころになると同時に、食品ロスの削減にもつながっています。</p> <p>※すべての活動に共通すること(SDGsの目標16, 17) 私たち学生にとって、これらの活動を通じて、経済格差による経験格差の問題などのひとり親世帯の課題を知り、その課題を減らしていくために、解決方法を考えていくきっかけになります。 また、活動するにあたって、NPOや出雲のボランティアセンター様や荒木コミュニティセンター様、お米作りでは、雲南の農家さんなどといった地域の方々や協働することで、ひとり親世帯の手助けの活動が成立します。</p>